

Create!Form アップデートマニュアル

V6.5 (Multi-Language Edition) → V10

FormCast / FormCollect

2013年11月

インフォテック・アーキテクト株式会社

目次

1. はじめに.....	3
2. 互換性に関わる項目.....	4
①互換性に関わる項目一覧.....	4
②互換性に関わる項目の詳細.....	5
A. 環境設定の方法について.....	5
B. API の互換性について.....	5
C. 使用可能な文字コード.....	6
D. 使用可能な画像フォーマット.....	6
E. テキスト変数の流し込み、自動改行出力について.....	7
F. グラフ変数（積み上げ棒グラフの）凡例の扱い.....	7
G. 同名変数の扱い.....	8
H. 標準データマップのマッピング.....	8
I. XML データ形式の扱い.....	9
J. フォーム変数の扱い.....	10
K. 1つのフォームファイルを複数のデータマップファイルから使用する場合のデータ編集の扱い.....	10
L. 0 バイトの入力データの扱い.....	11
M. CSV データ最終行の扱い.....	11
N. 多国語出力する場合の PDF フォントの扱い.....	12
O. リソースプロパティファイル（.rpx）の編集方法について.....	12
P. 帳票種別オーバーレイの多国語出力について.....	13
Q. タグライブラリ（JCastTaglib）について.....	13
3. アップデート手順.....	14
① V10 製品のインストール.....	14
② 互換性に関わる項目の確認.....	14
③ 資源ファイルの変換.....	16
④ ユーザー設定ファイルの移行.....	16
4. おわりに.....	19

1. はじめに

Create!Form は、帳票および定型ドキュメントの出力を担うソフトウェアパッケージ製品として開発され、多様な業務システムに組み込み利用されています。一度システムに組み込まれ業務運用を始めれば何年も稼動しますが、経年の途中でソフトウェア環境を新しいものに入れ替える事態も発生します。こういった場合、出来るだけ同じ仕様の製品が提供されていることが望まれます。これが製品における互換性の課題となります。

Create!Form は従来のものと互換性のある最新の製品をご提供できるように製品開発に取り組んでいます。ハードウェアと OS 環境の変化に合わせていく事、または技術の変化や市場のニーズに追従する事などを目的として改良を行います。改良を行う時には従来の仕様の上に互換性を保って改良を行うことを基準にしています。

しかしながら、将来的に変更を行うことが望ましい場合、従来の仕様を変更する場合があります。こういった場合でも、可能な限り従来の機能を利用できる手法をご提供するよう努力しています。このような事情について、ご理解をいただけるようお願い申し上げます。

本説明書では、**Create!Form** 製品の以下のバージョンのアップデートについて、詳細に記述しています。

現システムの製品バージョン : Version 6.5 Multi-Language Edition (以下 MLE と記述)
アップデートバージョン : Version 10 (以下 V10 と記述)

2. 互換性に関わる項目

旧バージョン (MLE) から V10 へのアップデートにおいて基本的には互換性が保たれていますが、V10 では MLE からの機能追加や不具合修正に伴い、一部製品の仕様が変更されています。このため、MLE の帳票資源ファイルをアップデートしてそのまま使用した場合、MLE の出力結果と差異が生じる可能性があります。

また、MLE は Pure Java のランタイム製品ですが、V10 は C/C++ のネイティブライブラリで提供されるランタイム製品となっています。このため、V10 は環境設定の方法やランタイムの実行方法が MLE とは異なります。

ここでは、MLE と V10 の互換性に関わる内容および対処方法について説明します。各項目の「対象」(※1) に該当する場合、「内容」と「対処」を確認してからアップデート作業 (※2) を行ってください。

※1：互換性に関わる項目の「対象」は、各項目詳細の「対象」をご参照ください。

※2：アップデート作業の詳細は、P14「アップデート手順」をご参照ください。

① 互換性に関わる項目一覧

【共通】

- A. 環境設定の方法について
- B. API の互換性について
- C. 使用可能な文字コード

【フォーム関連】

- D. 使用可能な画像フォーマット
- E. テキスト変数の流し込み、自動改行出力について
- F. グラフ変数（積み上げ棒グラフの）凡例の扱い
- G. 同名変数の扱い

【データマップ関連】

- H. 標準データマップのマッピング
- I. XML データ形式の扱い
- J. フォーム変数の扱い
- K. 1つのフォームファイルを複数のデータマップファイルから使用する場合のデータ

編集の扱い

【入力データ関連】

- L. 0 バイトの入力データの扱い
- M. CSV データ最終行の扱い

【多国語出力関連】

- N. 多国語出力する場合の PDF フォントの扱い
- O. リソースプロパティファイルの編集方法について
- P. 帳票種別オーバーレイの多国語出力について

【その他】

- Q. タグライブラリ (JCastTaglib) について

②互換性に関わる項目の詳細

A. 環境設定の方法について

[対象]

- ・全ランタイム製品

[内容]

MLE では、実行ログの設定や入力データの文字コード、外字出力の設定を ”jcast.properties” ファイルで設定していましたが、V10 では設定方法が異なり、更にランタイムを動作させるプラットフォーム (OS) によっても設定方法が異なります。

[対処]

V10 のインストールマニュアルおよびオンラインマニュアル「機能リファレンス」を参照して、V10 製品の導入環境に即した環境設定を行ってください。

B. API の互換性について

[対象]

- ・全ランタイム製品

[内容]

MLE では、JCast.jar のパッケージを利用してランタイムを実行していましたが、V10 では CreateFormLib.jar のパッケージを利用してランタイムを実行します。

なお、JCast.jar と CreateFormLib.jar のパッケージは基本的には互換性が無いため、V10 のランタイムを実行するには呼び出しプログラムの改修が必要となります。

[対処]

V10 のオンラインマニュアル「Java API リファレンス」および製品付属のコーディングサンプルを参照して呼び出しプログラムの改修を行ってください。

C. 使用可能な文字コード

[対象]

- ・全ランタイム製品

[内容]

MLE では、入力データ形式や動作環境によって入力データに使用できる文字コードに違いはありませんでしたが、V10 では入力データおよび動作環境によって使用できる文字コードが異なります。

- ・入力データ形式：CSV、TXT

Windows . . . SJIS、UTF-8、UTF-16 (LE)

UNIX / Linux . . . SJIS、EUC、UTF-8、UTF-16 (LE)

- ・入力データ形式：XML

Windows . . . SJIS、UTF-8、UTF-16 (LE)

UNIX / Linux . . . UTF-8、UTF-16 (LE)

※V10 では、入力データの文字コードに UTF-16 Big Endian を使用することはできません。

D. 使用可能な画像フォーマット

[対象]

- ・イメージオブジェクト、イメージ変数を使用したランタイム実行

[内容]

MLE では、拡張ライブラリを導入することで様々なフォーマットの画像ファイルを扱うことができましたが、V10 では以下の画像フォーマットのみ使用することができます。

・BMP ファイル

色数 :

1ビット モノクロ

8ビット 256色 RGBインデックスカラー

24ビット RGBフルカラー

圧縮 :

非圧縮

・TIFF ファイル

色数 :

1ビット モノクロ

4ビット 16色RGBインデックスカラー、グレースケール

8ビット 256色 RGBインデックスカラー、グレースケール

24ビット RGBフルカラー

圧縮 :

非圧縮、FAX G3、FAX G4、PackBits、LZW

・JPEG ファイル

色数 :

24ビット RGBフルカラー

符号化方式 :

ベースライン

E. テキスト変数の流し込み、自動改行出力について

[対象]

- ・テキスト変数に流し込み、自動改行が設定されたフォームファイルを使用したランタイム実行

[内容]

テキスト変数に流し込み、自動改行を設定した場合、MLE ではテキスト変数の定義領域の手前で改行が行われることがありましたが、V10 では処理が改善されて正しい位置で改行されるようになります。このため、流し込み、自動改行が設定されたテキスト変数の出力結果が、MLE と V10 で異なる可能性があります。

F. グラフ変数（積み上げ棒グラフの）凡例の扱い

[対象]

- ・グラフ変数に積み上げ棒グラフが設定されたフォームファイルを使用したランタ

イム実行

[内容]

積み上げ棒グラフは下から上に積みあがって描画されるため、凡例もグラフの描画に合わせて下から上へ描画されるように改善されました。

※MLE の場合、積み上げ棒グラフの凡例は上から下へ描画されます

G. 同名変数の扱い

[対象]

- ・全ランタイム製品
- ・UpToV10 で互換性のチェックを行った際に「変数名重複」と指摘されたフォームファイルを V10 で再編集する場合

[内容]

旧バージョン (MLE) では 1 つのフォームファイルに同じ変数名の変数オブジェクトを定義できましたが、V10 では 1 つのフォームファイルに同じ変数名の変数オブジェクトを定義してフォームファイルを保存することはできません。

[対処]

同名変数が定義されたフォームファイルを V10 環境で再編集して保存する場合、以下の設定を行ってフォームファイルを保存するか、もしくは、同名変数を別の変数名にリネームして保存し、データマップファイルの修正を行ってください。なお、本作業は V10 環境でフォームファイルを再編集しない場合、行う必要はありません。

フォームファイル保存手順

1. 同名変数が定義されているフォームファイルをフォームエディタで開きます。
2. [ファイル]メニューの[フォーム設定]をクリックします。
3. [ステータス]タブの[旧来方法の出力位置指定]チェックボックスにチェックを入れます。
4. [OK]ボタンをクリックします。
5. フォームファイルを上書き保存します。

H. 標準データマップのマッピング

[対象]

- ・標準データマップ形式の帳票資源ファイルのランタイム実行

[内容]

Unicode データを使用する標準データマップを設定する場合、MLE では Unicode データ (UTF-16) のバイト数を考慮してマッピングを行う必要がありましたが、V10 では半角文字を 1 バイト、全角文字を 2 バイトとして扱いマッピングを行います。このため、標準データマップを設定した MLE の資源を V10 にアップデートしてそのまま使用した場合、想定する文字数より多くデータが出力される可能性があります。

例)

標準データマップで半角英数字 5 文字を出力する場合

MLE : 10 バイト (長さ 10) でマッピングを設定

V10 : 5 バイト (長さ 5) でマッピングを設定

上記 MLE のデータマップファイルを V10 にアップデートした場合

入力データ「1234567890」の出力結果

MLE : 12345

V10 : 1234567890 ← 5 文字多く出力される

[対処]

マッピング領域を修正する必要がある場合、V10 のデータマップエディタを使用してデータマップファイルの修正を行ってください。

※本内容は、CSV データマップ、XML データマップには影響ありません。

I. XML データ形式の扱い

[対象]

- ・XML データマップ形式の帳票資源ファイルのランタイム実行

[内容]

XML データを使用した帳票出力機能は、機能改善のため Create!Form V7 で仕様を変更されました。このため、V7 より古いバージョン (MLE を含む) の XML データ用の帳票資源ファイル (dmx、stx) は変換ツールで V10 用の帳票資源ファイルに変換することができません。

[対処]

V10 の開発環境 (FormDesign) を使用して、新規に V10 用の帳票資源ファイルを作成してください。XML データ形式の帳票資源ファイル作成方法の詳細は、V10 のオンラインマニュアル「機能リファレンス- XML 形式の Datamap エディタ」

をご参照ください。

※フォームファイルは V10 用の帳票資源ファイルに変換することができます。

J. フォーム変数の扱い

[対象]

- ・フォーム変数（\$FORM）が登録されたデータマップファイルを使用したランタイム実行

[内容]

フォーム変数を使用してフォームを切り替える機能は、V10 ではマルチフォーム機能に統合されました。このため、フォーム変数（\$FORM）が登録された帳票資源ファイルをアップデートして、V10 でそのまま使用することはできません。

[対処]

V10 の開発環境（FormDesign）を使用して、新規に V10 用の帳票資源ファイルを作成してください。マルチフォーム機能を使用した帳票資源ファイル作成方法の詳細は、V10 のオンラインマニュアル「機能リファレンス – マルチフォーム」をご参照ください。

※フォームファイルは V10 用の帳票資源ファイルに変換することができます。

K. 1つのフォームファイルを複数のデータマップファイルから使用する場合のデータ編集の扱い

[対象]

- ・1つのフォームファイルを複数のデータマップファイルから使用している帳票資源ファイル
- ・UpToV10 で互換性のチェックを行った際に「データ編集の競合」と指摘された帳票資源ファイルのランタイム実行

[内容]

V10 ではデータ編集設定が Form エディタに移動し、フォームファイルの各変数ごとにデータ編集を設定するように変更されました。この変更に伴い、旧バージョンで1つのフォームファイルを複数のデータマップファイルで使用し、且つそれぞれのデータマップファイルで異なるデータ編集を1つの変数に対して設定している場合に帳票資源ファイルの修正が必要となります。

なお、この仕様変更の影響があるかどうかは、UpToV10 で互換性のチェックを行うことで確認することができます。

[対処]

複数のデータマップファイルで共通利用されているフォームファイルをコピー・リネームして、それぞれのデータマップファイルに1つのフォームファイルを用意してください。次に、コピー・リネームしたフォームファイルをジョブファイル(.sty)に再登録した状態で UpToV10 を使用して帳票資源ファイルの変換を行ってください。

L. 0 バイトの入力データの扱い

[対象]

- ・データが存在しない (0 バイト) の入力データファイルを使用したランタイム実行

[内容]

空のデータファイルに対する処理の仕様が変更されたため、次のような差異が生じます。

- ・MLE の場合、変数个所が空白の固定オブジェクトのみの帳票が出力されます
- ・V10 の場合、エラーとして処理を中断します

[対処]

次のような互換設定を行うことで、V10 で MLE と同じ出力結果となります。

Windows

V10 の製品導入ディレクトリ直下の” CreateV10.ini” の[Common]セクションに” EmptyPageMode = 1” と入力します。

UNIX / Linux

環境変数 ” CREATE_EMPTYPAGEMODE” に” 1” を設定します。

M. CSV データ最終行の扱い

[対象]

- ・最終行の末尾に改行コードがない入力データファイルを使用したランタイム実行

[内容]

CSV データの最終行の改行コードの扱いに関する仕様に変更されたため、次のような差異が生じます。

- ・MLE の場合、最終行のデータが出力されます。
- ・V10 の場合、最終行のデータが出力されません。

[対処]

次のような互換設定を行うことで、V10 で MLE と同じ出力結果となります。

Windows

V10 の製品導入ディレクトリ直下の” CreateV10.ini” の[Common]セクションに” CSVInputMode = 1” と入力します。

UNIX / Linux

環境変数 ” CREATE_CSVINPUTMODE” に “1” を設定します。

N. 多国語出力する場合の PDF フォントの扱い

[対象]

- ・ 多国語を含んだ PDF 出力

[内容]

以下のフォントを使用して MLE で多国語を出力する場合、PDF ファイルにフォントは埋め込まれませんが、V10 で多国語を出力する場合、PDF ファイルに必ずフォントが埋め込まれます。

- ・ SimSun : 中国語(簡体)
- ・ Mingliu : 中国語(繁体)
- ・ BatangChe : 韓国語

[対処]

FormCast、FormCollect ランタイム導入環境に、多国語出力に使用するフォントファイルを配置する必要があります。V10 における多国語出力の詳細は、オンラインマニュアル「機能リファレンス - 多国語出力」をご参照ください。

O. リソースプロパティファイル (.rpx) の編集方法について

[対象]

- ・ リソースプロパティ変更機能を使用したランタイム実行

[内容]

MLE でリソースプロパティ変更機能を使用する場合、リソースプロパティファイル (.rpx) は手書きで作成する必要がありましたが、V10 では専用のエディタを使用してリソースプロパティファイルの新規作成および編集作業を行います。

※V10では、リソースプロパティファイルを手書きで編集することはできません。

[対処]

V10でリソースプロパティファイルの新規作成および編集作業を行う場合は、V10の開発環境（FormDesign）に付属しているRPXエディタを使用してください。RPXエディタの使用の詳細は、オンラインマニュアル「機能リファレンス - リソースプロパティ変更機能」をご参照ください。

なお、MLEで使用していたリソースプロパティファイルをV10で使用する場合、変換ツール（UpToV10）でのアップデートが必要となりますのでご注意ください。

P. 帳票種別オーバーレイの多国語出力について

[対象]

- ・帳票種別「オーバーレイ」を使用したランタイム実行（多国語出力）

[内容]

V10では、帳票種別「オーバーレイ」（データマップを使用しない出力形式）を使用したランタイム実行で多国語を出力することができません。

[対処]

V10の開発環境（FormDesign）を使用して、標準データマップ形式の帳票資源ファイルを新規に作成してください。標準データマップ形式の帳票資源ファイル作成方法の詳細は、V10のオンラインマニュアル「機能リファレンス - TXT形式のDatamapエディタ」をご参照ください。

※フォームファイルはV10用の帳票資源ファイルに変換することができます。

Q. タグライブラリ（JCastTaglib）について

[対象]

- ・タグライブラリ（JCastTaglib）を使用している場合

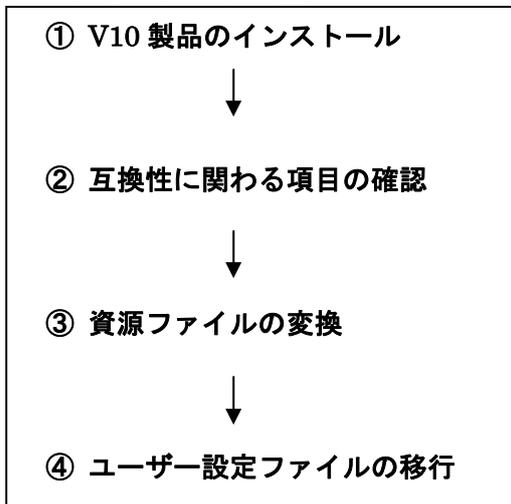
[内容]

タグライブラリ（JCastTaglib）は、MLEおよびJavaEditionの固有機能となります。このため、V10ではタグライブラリを使用することはできません。

3. アップデート手順

ここではシステム環境に V10 をインストールし、アップデートする手順を示します。

図 1. アップデートの流れ



資源ファイルとは、フォームファイル、データマップファイル、ジョブ（スタイル）ファイル、リソースプロパティファイルの各帳票資源ファイルを指します。ユーザー設定ファイルとは、開発環境、運用環境共通で使用する設定ファイルです。

① V10 製品のインストール

まず最初に V10 製品のインストールを行います。V10 製品のインストールは、V10 製品の「インストール」マニュアルに沿って行ってください。なお、MLE がインストールされた環境と同じ環境へ V10 製品をインストールする場合、MLE とは異なるディレクトリへ V10 製品をインストールしてください。

② 互換性に関わる項目の確認

ご利用の資源ファイルが「2. 互換性に関わる項目」に該当するかどうか、FormDesign 製品付属の資源ファイルバージョンアップツール（以後、UpToV10）で確認できる項目があります。UpToV10 で確認できる項目は、以下の項目です。

G. 同名変数の扱い → [変数名重複]

K. 1つのフォームファイルを複数のデータマップファイルから使用する場合のデータ編集の扱い → [データ編集の競合]

I. XML データ形式の扱い → 入力データ形式 [XML]

M. CSV データ最終行の扱い → 入力データ形式 [CSV]

確認は以下の手順で行います。

1. V10 製品付属の“UpToV10”を起動します。
スタートメニューの[FormDesign ツール]、またはマネージャのメニュー[オプション]-[UpToV10]より起動します。
2. 「変換元ディレクトリ」に MLE の資源ファイルの作業ディレクトリを選択します。
3. 「互換性チェック」の「チェック」ボタンをクリックします。
4. 互換性に関わる項目に該当する資源ファイルが存在する場合は、[互換性チェック]ダイアログが表示されます。また、製品導入ディレクトリ直下の log ディレクトリにチェック結果のログファイル“UpToV10_Diff.log”が出力されます。
5. 該当する資源ファイルが存在する場合、「2. 互換性に関わる項目」に対応した[対処]を行ってください。

[互換性チェック]ダイアログの見方

- ・ファイルリスト

互換性に関わる項目に該当したファイル (fmd、dmp、sty、stx) が表示されます。リスト内の各ファイルをクリックすると、そのファイルにおける互換性チェック項目が右側の[チェック項目リスト]に表示されます。

- ・ fmd ファイル (フォームファイル) のチェック項目

「G. 同名変数の扱い」「K. 1つのフォームファイルを複数のデータマップファイルから使用する場合のデータ編集の扱い」に該当するかどうかを表示します。該当する設定が存在する場合は、「オブジェクト番号 (No)」「オブジェクト名」と共に、「変数名重複」「データ編集の競合」項目に「○」が表示されます。該当する設定が存在しない場合は、何も表示されません。なお、「変数名重複」「データ編集の競合」以外の項目に「○」が表示されている場合におきましても、MLE 製品からのアップデートに影響はありません。

- ・ dmp ファイル (データマップファイル) のチェック項目

dmp ファイルのチェック項目は、MLE 製品からのアップデートに影響が無いため確認は不要です。

- ・ sty、stx ファイル (ジョブファイル) のチェック項目

ジョブファイル実行時に使用する入力データの形式 (XML もしくは CSV) を表示します。(TXT 形式は表示されません)

「I. XML データ形式の扱い」「M. CSV データ最終行の扱い」に該当するかどうかを確認してください。

③ 資源ファイルの変換

資源ファイルの変換作業は、互換性の問題にかかわらず必ず行います。

MLE で使用していた帳票資源ファイルを変換ツール (UpToV10) を使用して V10 で使用できるように変換します。この変換作業は開発環境で行い、変換した V10 の資源ファイルを運用環境にコピーまたは転送します。

1. MLE の資源ファイル一式を FormDesign V10 をインストールしたマシンにコピーします。
2. MLE の資源ファイルを、FormDesign V10 製品付属の UpToV10 で V10 の資源ファイルに変換します。

④ ユーザー設定ファイルの移行

MLE で使用しているユーザー設定ファイルを V10 環境へ移行します。

ユーザー設定ファイルには、次のようなファイルがあります。

- Unicode フォントファイル
- 外字ファイル
- データ編集定義ファイル
- PDF セキュリティ設定ファイル
- カラーパレットファイル

MLE で独自の設定を追加して使用している場合、そのファイルを V10 の環境にコピーする必要があります。

1. Unicode フォントファイルのコピー

MLE で Unicode フォント (. ttf) を使用している場合、Unicode フォントを V10 環境へコピーします。

この作業は、開発環境 (FormDesing)、運用環境 (FormCast / FormCollect) 共に行う必要があります。

なお、Unicode フォントを使用していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

- (1) MLE 導入ディレクトリ直下の” jcast.properties” ファイルにて、
「jcast.ufont.path」で指定された Unicode フォントを V10 導入環境にコピーしてください。なお、コピー先のディレクトリは V10 製品導入 OS によって異なります。詳しくは、V10 製品オンラインマニュアル “3.機能リファレンス” の「PDF 用埋め込みフォント」をご参照ください。

2. 外字ファイルのコピー

MLE で外字を使用している場合、外字ファイル (. pfn) を V10 環境へコピーします。この作業は、開発環境 (FormDesing)、運用環境 (FormCast / FormCollect) 共に行う必要があります。

なお、外字フォントを使用していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

- (1) MLE 導入ディレクトリ直下の” font” ディレクトリの外字ファイル (. pfn) を V10 導入ディレクトリ直下の” font” ディレクトリにコピーします。
- (2) ランタイム実行時に使用する QDF ファイルに、QDF エディタを使用して以下のキーを追加してください。ランタイム実行時に QDF ファイルを指定しない場合は V10 導入ディレクトリ直下の「default.qdf」に以下のキーを追加してください。

/pdfgaiji = 外字ファイル (. pfn) 名

3. データ編集定義ファイルのコピー

MLE のデータ編集機能においてユーザー定義編集を使用している場合は、定義データ (EFmEdit.dat) のコピーが必要です。ユーザー定義編集とは、インストール時に登録されたデータ編集とは別に、新規に登録した独自のデータ編集のことを指します。この作業は、開発環境 (FormDesing) で行う必要があります。

なお、ユーザー定義編集を追加していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

- (1) MLE (Create!Design) 導入ディレクトリ直下の” EFmEdit.dat” ファイルを V10 導入ディレクトリ直下にコピーします。

4. PDFセキュリティ設定ファイルのコピー

MLE で PDF セキュリティ設定を SEC ファイル (. sec) に登録して使用している場合、SEC ファイルを V10 環境へコピーします。

この作業は、開発環境 (FormDesing)、運用環境 (FormCast / FormCollect) 共に行う必要があります。

なお、SEC ファイルを使用していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

- (1) MLE の Create!Form 導入ディレクトリ直下の “sec” ディレクトリの拡張子 “. sec” のファイルを全て V10 導入ディレクトリ直下の “sec” ディレクトリにコピーします。
- (2) ランタイム実行時に使用する QDF ファイルに、QDF エディタを使用して SEC ファイルの設定を追加してください。ランタイム実行時に QDF ファイルを指定

しない場合は V10 導入ディレクトリ直下の「default.qdf」に SEC ファイルの設定を追加してください。

5. カラーパレットファイルのコピー

MLE で独自の色設定を作成して使用している場合は、カラーパレットファイルを V10 の導入ディレクトリにコピーします。

この作業は、開発環境 (FormDesing) で行う必要があります。

なお、色設定を作成していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

- (1) MLE 導入ディレクトリ直下の拡張子 “.plt” のファイル (カラーパレットファイル) を全て、V10 導入ディレクトリ直下にコピーします。

4. おわりに

本アップデートマニュアルは、新たに互換性に関する記載事項が発見された場合は、追加更新が行われます。最新のアップデートマニュアルは、弊社サポートページよりダウンロードできます。また、アップデート作業に関してご質問がある場合、弊社サポート係までご連絡ください。

■ サポートホームページ

URL : <http://support.createform.net/>

■ サポートお問い合わせ

E-Mail : support-c@iftc.co.jp

Create!Form

アップデートマニュアル [MLE → V10]

発行日 2013年11月1日 [第1版]

発行者 インフォテック・アーキテクト株式会社